

- 問1 戦国時代の都市についてまとめられた資料において、「有力な商人による自治的な運営が行われていたこと」「種子島に伝来した鉄砲の主要な生産拠点となったこと」「千利休などの商人がわび茶の文化を完成させたこと」という3つの特徴を持つ、現在の大阪府に位置する港町はどこですか。 (2023年 滋賀公立入試 類似)
1. 堺 2. 博多 3. 長崎 4. 平戸
- 問2 応仁の乱ののち、実力で領地を広げた戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を支配するために独自に制定した法律を何と称していますか。 (2023年 静岡公立入試 類似)
1. 分国法 2. 御成敗式目 3. 武家諸法度 4. 建武式目
- 問3 戦国時代の甲斐国（現在の山梨県）を治めた武田氏が定めた「甲州法度之次第」のように、各地の戦国大名が領国支配のために定めた法について、その特徴を説明したものとして適切なものはどれか。 (2021年 京都公立入試 類似)
1. 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。 2. 全国の公家を統制し、儀式や行事のあり方を細かく規定することで天皇の権限を制限した。 3. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目をそのまま引用し、全国一律の公平な裁判を保証した。 4. 朝廷が定めた律令制度を復活させ、中央集権的な国家体制を再構築することを目指した。
- 問4 戦国大名の本拠地として発達した「城下町」の形成と役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住ませ、政治・軍事・経済の拠点とした。 2. 戦乱による被害を避けるため、城の周囲には武士のみを住ませ、商人には立ち入りを禁じた。 3. 農民が武器を持って城下町に集まることを推奨し、有事の際の防衛力を高めた。 4. 海外との貿易を独占するため、すべての城下町は海岸沿いの港町に隣接して造られた。
- 問5 戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何と称するか。 (2021年 京都公立入試 類似)
1. 分国法 2. 武家諸法度 3. 公家諸法度 4. 御成敗式目
- 問6 1549年、日本の鹿児島に上陸し、キリスト教を日本に初めて伝えたイエズス会の宣教師は誰ですか。 (2017年 京都公立入試 類似)
1. フランシスコ・ザビエル 2. マルコ・ポーロ 3. マゼラン 4. ヴァスコ・ダ・ガマ
- 問7 戦国大名による領国支配の実態について述べた文として、当時の法律の内容や背景から考えて正しいものはどれか。 (2024年 奈良公立入試 類似)
1. 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。 2. 伊達氏の法典では、農民が年貢を納められない場合に備え、納税を免除する権利を認めた。 3. これらの法律は、全国の戦国大名が協議によって作成した全国共通のルールであった。 4. 分国法においては、武士同士の紛争はすべて室町幕府の裁判所に委ねるよう定めていた。
- 問8 1543年にポルトガル人を乗せた船が現在の鹿児島県にある島に漂着し、日本に初めて火縄銃が伝えられました。この出来事がその後の戦国時代の戦い方に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 足軽などの歩兵による集団戦法が重視されるようになった。 2. 騎馬武者同士による一騎打ちが戦いの中心となった。 3. 弓矢が全く使われなくなり、すべての兵士が銃を装備した。 4. 接近戦を防ぐために、城の石垣をあえて低く築くようになった。
- 問9 1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えた宣教師について、彼の所属組織と人物名の組み合わせとして正しいものはどれか。なお、この人物は後に山口などでも布教を行い、胸の前で手を合わせる姿を描いた肖像画のモデルとしても広く知られている。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
1. イエズス会 — フランシスコ・ザビエル 2. イエズス会 — ルイス・フロイス 3. フランシスコ会 — フランシスコ・ザビエル 4. フランシスコ会 — ヴァリニャーノ
- 問10 応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何と称していますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 御成敗式目 2. 分国法 3. 武家諸法度 4. 公事方御定書
- 問11 「甲州法度之次第」と呼ばれる分国法を制定し、領国内の統治を強化した戦国大名は誰か。 (2021年 沖縄公立入試 類似)
1. 織田信長 2. 上杉謙信 3. 足利義満 4. 武田信玄
- 問12 1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師は誰か。 (2017年 北海道公立入試 類似)
1. フランシスコ=ザビエル 2. ルイス=フロイス 3. ヴァリニャーノ 4. マテオ=リッチ
- 問13 大友宗麟をはじめとする有力な戦国大名が、キリスト教を保護し、自らも入信した背景として、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2025年 京都公立入試 類似)
1. 南蛮貿易による利益を得るとともに、軍事的に有利な鉄砲や火薬などの輸入を円滑に進めるため 2. キリスト教の教えを広めることで、反抗的な一向一揆などの仏教勢力を抑え込むため 3. 室町幕府の将軍から、キリスト教を保護することを条件に領地の支配権を認められたため 4. ヨーロッパ諸国の軍隊を日本に呼び寄せ、国内の戦乱を武力で平定させるため
- 問14 室町時代後期から戦国時代にかけて、各地の実力者が幕府の法に頼らず、自らの領国内を統治するために独自に制定した法律を何と称していますか。 (2024年 岡山公立入試 類似)
1. 分国法 2. 御成敗式目 3. 武家諸法度 4. 公事方御定書
- 問15 鉄砲の伝来がその後の日本の戦い方や社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。 (2014年 沖縄公立入試 類似)
1. 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。 2. 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。 3. 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。 4. 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 堺	戦国時代の堺は、会合衆（えごうしゅう）と呼ばれる有力な商人が中心となって自治的な町運営を行っていました。堀を巡らせて自衛を行うほど経済力と組織力を持っており、鉄砲の生産や茶の湯といった文化の面でも、日本の歴史上重要な役割を果たしました。
問2	答え 1 分国法	室町時代の中期から後期にかけて、幕府の権威が衰え戦乱が全国に広がる中、各地に戦国大名が登場しました。彼らは土地の争いや家臣の統制、年貢の徴収などを円滑に行い、自分の領国を安定して支配するために独自の法律を定めました。鎌倉時代の「御成敗式目」や江戸時代の「武家諸法度」と混同しないよう注意が必要です。
問3	答え 1 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。	分国法は、戦国大名が家臣団を統制し、領国を安定させることを目的としていました。特に「喧嘩両成敗」の規定は、武士同士が私的な武力で行使していた解決を禁じ、大名の判断に従わせることで領国内の紛争を抑える重要な仕組みでした。
問4	答え 1 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住ませ、政治・軍事・経済の拠点とした。	戦国大名は、それまで各地の領地に散らばっていた家臣を城の周辺に集住させることで、軍事的な動員を容易にし、統制を強めました。また、商工業者も呼び寄せることで、武器の製造や物資の流通を活発化させ、領国の経済を発展させました。これが後の近世都市の原型となりました。
問5	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問6	答え 1 フランシスコ・ザビエル	スペイン出身の宣教師で、カトリック教会の改革を目指したイエズス会の創立メンバーの一人です。1549年に鹿児島へ到着し、その後、山口や京都などで布教活動を行いました。当時、ヨーロッパでは宗教改革が起こっており、カトリック教会は新たな信者を得るために海外への布教に力を入れていました。
問7	答え 1 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。	分国法は各戦国大名が領国の実情に合わせて個別に定めたもので、内容は多岐にわたります。朝倉氏の事例のように、家臣が勝手に拠点をすることを禁じたり、役人（代官）を適切に配置したりする規定は、大名による中央集権的な支配を強める意図がありました。一方で、伊達氏の事例に見られるように、年貢の未納に対しては厳しい処罰を科すなど、農民に対しても強い統制を行っていました。
問8	答え 1 足軽などの歩兵による集団戦法が重視されるようになった。	火縄銃の導入は、それまでの騎馬武者による一騎打ちを中心とした戦いから、組織化された足軽の集団による一斉射撃などの戦術へと変化させました。織田信長が長篠の戦いでこの戦術を効果的に用いたことは有名です。これにより、個人の武勇よりも組織的な運用や物資の調達能力が勝敗を左右するようになりました。
問9	答え 1 イエズス会 — フランシスコ・ザビエル	16世紀のヨーロッパでは宗教改革が起こり、それに対抗する形でカトリック側は自己改革と海外布教を推進した。その中心的な組織がイエズス会であり、創立メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教を伝えた。ルイス・フロイスは織田信長と交流し『日本史』を記した人物であり、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を指導した宣教師であるため区別が必要である。
問10	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとした。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問11	答え 4 武田信玄	甲斐（現在の山梨県）を拠点とした武田信玄は、領国支配を確かなものにするため「甲州法度之次第」を定めました。この中には家臣団の統制だけでなく、大名自身の行動を制約する条文も含まれており、領国全体で法による秩序を作ろうとした点が特徴です。
問12	答え 1 フランシスコ=ザビエル	スペイン出身でイエズス会の創立会員の一人です。インドのゴアで出会った日本人アンジロウ（ヤジロウ）の案内で来日しました。その後、平戸や山口、豊後（大分）などで布教活動を行いました。ルイス=フロイスは後に来日し『日本史』を記した人物、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を勧めた人物であり、活動時期や内容が異なります。
問13	答え 1 南蛮貿易による利益を得るとともに、軍事的に有利な鉄砲や火薬などの輸入を円滑に進めるため	当時のキリスト教の布教は南蛮貿易と一体となって行われていました。戦国大名たちは、海外の進んだ技術や富、特に戦術を大きく変えた鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を優先的に確保するために、布教を許可して宣教師を優遇しました。
問14	答え 1 分国法	応仁の乱以降、室町幕府の権威が衰退したため、各地の戦国大名は自分の力で領国を維持・発展させる必要がありました。そこで、家臣同士の争いを裁いたり、領国内の治安を維持したりするために、独自に制定した法が「分国法」です。今川氏の「今川仮名目録」や武田氏の「甲州法度之次第」などが有名です。
問15	答え 1 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。	鉄砲の普及により、それまでの騎馬武者による一騎打ち中心の戦い方から、足軽による集団戦術へと大きく変化しました。織田信長が長篠の戦いで鉄砲隊を活用したことはその代表例です。また、鉄砲や大砲の攻撃に耐えるため、石垣を高く積み上げ、広い堀を持つ巨大な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面に大きな変革をもたらしました。